



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065  
 編集 早川清志  
 題字 島崎洋路

### 『通年コース第四回報告』施業診断

## 『下生えにコアジサイが咲くヒノキ林』

あのヒノキ林です。

たが山主で、さてあな

一昨年、島崎山林研修所で間伐したヒノキ林 枝打ちも五メートルほどなされており、明るく気持ちのよい林です。下層は腰丈くらいに伸び

たコアジサイがもう少しで満開。一班の皆さんが測樹をし、込み具合を調べてくれました。結果は相対幹距比が17%、林分形状比は85。まあま



明るく日が差すヒノキ林。梅雨時にはコアジサイも楽しめる



3メートル98センチ？2センチ足りないね



末口は皮なしで最小径を測るのです



施業指針策定風景5班「ウーン」

時間的に少し余裕が出来たからこの林を手入れしてみようという時、どのようにするでしょうか。十人いれば十色の答えが出てくるはず。その後どのくらいの頻度と、どのくらいの手厚さで手入れができるのか、最終的にはどんな林を想定し、いつ収穫するのか、そして今回の手入れの目的と経費の程度は、などを決めた上で取り掛からなければなりません。またひよっとして間伐に関わる補助金も

当てにできるかもしれない。七人の班に七通りの意見があったはずですが、成田さんが代表して考えを発表してくれました。五年後に相対幹距比が18になるように間伐をする。切る対象は胸高直径が20〜24センチあたりの柱材で、間伐本数は全体の約二割。それより細いものや太いものは残す。切った材は市場に出荷して経費の足しにする。実に分かりやすい明快な答えでした。

もう少し時間があれば施業にかかると人工数や出石(市場に出せる材の量)の見積もりもやりたかったのですが、かなり濃い、電卓が手放せない一日でした。

測樹、施業診断、指針の策定、前回と二日間をかけておこないましたがご理解いただき

**第四回 施業診断** 6月8日(土)

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。日程説明の後、先生のあいさつ。引き続き前回の測樹のデータをもちに、地位指数、林分形状比、相対幹距比の説明

10時 各班でそれぞれの計算に入る

10時30分 施業指針の策定方法の説明

11時40分 各班で施業指針を策定し発表。それぞれに素晴らしい指針を立ててくれました

12時20分 昼食

1時15分 小屋から歩いて5分ほど、イントラの後藤、川島ペアが間伐した市有林に残されている丸太を借りて丸太材積の求め方の練習。立木と少し違いま

けたでしょうか。立木幹材積は皮もはかり、丸太材積は皮抜き。覚えてる？

前回、今回の二日間、間伐のものになる考え方で。ポランティアで山を手がける場合でもこのあたりの手順で是非おさえておきたいものです。

同左1班「間伐しなくてもいいかなあ」



同左1班「間伐しなくてもいいかなあ」



少し悩ましい2班の混交林。サワラを生かしたいと木村さん

3時 平林さん率いる一班の調査林に向かい、再度成すので混同しないように。直径20センチ程度のアカマツを各班十本測り合計したら一立方強。これをトラックに積んで市場まで運び、運良く売れたとしても数千円。パルプの原料としてチップ工場に持ち込めば二千円くらいかな。砂利の値段といい勝負。イントラ石原が嘆いていました。



現場で再度の発表。成田さんの収穫間伐

田さんの施業指針を聞く。枯れ枝が多少目につくものの、ヒノキ林も数年毎に手を入れ、このくらいに空かせば下生えも出てきて林地も守られる

3時40分 終了、解散



2班鬼頭さんは毎週末地元や足助で山仕事三昧

講師/島崎先生  
スタッフ/石原、川島、後藤、平林、坂野、早川

参加者/井上さん、江尻さん、尾形さん、長部さん、北澤さん、鬼頭さん、木村さん、黒岩さん、小山さん、齊藤さん、佐藤さん、下平さん、館野さん、坪内さん、成田さん夫妻、長谷川さん、塙さん、淵上さん、松田さん、宮沢さん、山下さん、山田さん、和辻さん、風見さん、佐藤さん、長坂さん、久部さん、松永さん、池田さん、芳賀さん

次回以降の予定

第五回 伐木造材

6月21日(金)

チェーンソーを使って実際に木を切り倒してみましよう。便利ではありますが、なかなか侮れない道具ではあります。メンテナンスももちろん身に付けてください。8時30分 島崎先生の山小屋に集合。ナタ、ノコ、ヘルメットなどある方は持参ください。これら道具の使い方もやってみます。出来れば皮手袋、足回りもしっかりと。お弁当、雨具。場所はますみヶ丘平地林の一角で。担当は保科先生です。

第六回 下草刈り

6月22日(土)

山仕事のきつさを体験してみてください。植林をした伊那市下殿島区有林を予定しています。地帯えもやってみま



15年後にSr20を想定し、今一気に半分以上を切るという大胆江尻さん

しよう。8時30分 島崎先生の山小屋に集合。お弁当、雨具。二日続きになりますので遠くの方は宿の手配を。担当は保科先生です

専門コース 間伐

7月4日(木)~6日(土)

二回目の開催です。宿題は覚えていますか。伐倒の手順を言葉で説明する。色々な場合を想定してイメージトレーニングをしてみてください。8時30分 島崎先生の山小屋に集合。場所未定

第七回・八回 間伐

7月19日(金)20日(土)

保残木マーク法による間伐の実践です。選木/伐倒

今日のポイント

前回、今回とややこしい数式が並び、普段この手の作業から離れている方は少し辛



塾生を使って口八で伐出し市場には超高値で引き取らせる山田さんの皮算用

かつたかなと思います。でもこのあたりの調査と診断が間伐の前提となり、しかも数字に残しておくとし送りができる。責任者が次々と変わる共有林、ボランティアでの仕事、また、次の世代に残していく人工林などには不可欠であると思います。何とかモノにしてください。

丸太材積

なお、丸太材積で、ながさ6mを超えるものの計算方法は次のようでしたね。

「材の最小径に長さ2m増える毎に1cmを足して材の径とみなして計算する」

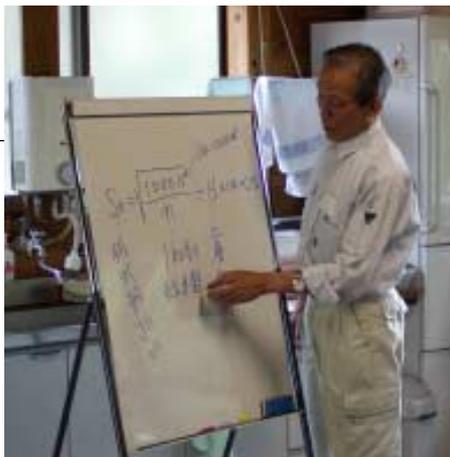
また扁平の丸太の計算方法は同じく日本農林規格(JAS)で、「最小径に直角な径との差が6cm以上あるものの径は、差6cm毎に2cmを加えたものとする」とあります。JASでは丸太材積は丸太全体のなかでの最小径を径としていますが、市場取引では一般的には末口の最小径を径

として計算しているようです。

林分調査表

島崎先生も触れられていたが、混交林の扱い。川島班が出た数字の判断に悩んでいました。この班は上層が22mを超えるアカマツ、その下にサワラのそこそこ太いものがあり、さらに下層には胸高直径10cm前後のヒノキが植えられています。これらを一緒に計算するのはやはり無理がある。相対幹距比(Sr)や林分形状比、地位などは人工林の一斉林を想定した数字です。

ではそういう林はどのようにすればよいのかと言うと、樹種、林齢で分けて考えるしかないと思います。現在、推奨されている育成複層林などでも、その施業方法の確立が急がれるべきでしょう。



Srは込んでいる林ほど数字が小さい



### 自然農園を求めて 尾形 建吉

今回、森林塾に参加させていただききっかけは先生の「山造り承ります」のご本との出会いであり、先生の信条とされている「山造りは誰にでもできる」というお言葉であると思います。



それまでは、山仕事に多少は興味を持ちながらも木を切ったり、それら運び出す

といった仕事には専門的な技量や、それなりの設備が必要なもの、とても自分にはできない種類の仕事のように思っておりました。しかしこのお言葉に接し、後押しされる感じで、この森林塾参加を決心いたしました。

今現在、自給自足の生活を目指し、自然農の勉強をしている最中ですが、そのきっかけとなったのも、やはり福岡正信さんの「自然農法」という本との出会いでした。

四年程前、それまで勤めていた会社をリストラ騒ぎのなか退職し、新たな仕事を考えていくなかで福岡さんの「国民皆農論」「一反百姓論」に触れ、自分にもできそうな気分になり、自然農を始める決心をしました。

そこで、自然農を勉強できるところということいろいろ探した結果、奈良県に赤目自然農塾と言う、年間を通して教えてくれ、実際に自分で

田畑仕事を体験できる所がある所を知り、さっそく申込みしてみました。

申込みの際のやりとりで、相手はスコップとクワとノコギリガマく

らいを用意しておけばよいでしょうと言われ、え？ノコギリガマ？そんなものがあるのですか？との、農業のことはほとんど知らない第一歩でありました。

それが毎月一回、塾へ通うことよって、農業のイロハから、一年を通しての作物の作付け、収穫、畑回りの細々とした作業を丁寧に教えていただき、さらに不耕起、無農薬、無肥料、といった自然農の考え方も十分に教えていただき、充実した一年でありました。



お借りしていた田圃で実際に自分でお米を作り、二キロ足らずの収穫でしたが、手にした時の感激はひとしおで、二キロとは思えない重量感がありました。

二年目は、一反百姓論（一家数人の者が完全な自然農法で自給体制をとるために必要とする面積はわずかに十アールでよい）にあるような、一反の広さの田圃で米づくりをするのに、どれほどの体力が要り、自分でもやっていけるか試してみようと考えました。五、六畝の田圃ができれば、一反もそんなに変わらな

### 農をなりわいに 北澤 秀人



こんにちは、北澤秀人と申します。長野市の善光寺の西一キロぐらいのところ生まれまして五十年間同じところで暮らしてきました。二十六年間勤めた会社が、共済部門の破綻で組織の再構築（全員退職 別会社を設立して再雇用or希望退職）ということで退職しまして一年が過ぎました。

#### 「近況報告」

鳥とともに起き（夜が明けるとともに）日が沈むとともに休むをモットーに晴耕雨読な生活で自給自立をしようと農を営みながら生活費を農業で稼ごうと想い現在に至りま



「農について」  
 生家がりんご農家というこ  
 とと、生涯現役でいられる仕  
 事というところで農を(なりわ  
 い)としようと、思いました。  
 これといった企画が有ったわ  
 けでも、志が有ったわけでも  
 ありません。昔からりんご作  
 りを手伝いながら何とかおい  
 しいりんごができないものか  
 といろいろな研究会を渡り歩  
 きました(生体システム実践  
 研究会・自然農・自然農業等)  
 私自身の資質と努力不足と理  
 解不足のためかこれだとい  
 うりんごができません。昨年か  
 らりんご生産クラブ(平均年  
 齢七十歳以上)に、今年から  
 さくらんぼ部会(こちらの平  
 均若い、私より若い人もい  
 る)に入れていただいて基礎  
 の研修に励んでいます。

標準収量ですが平均八トン、  
 良い年で十トン、良品率は九  
 十%以上、それでいて高品  
 質)の講習を受ける機会に恵  
 まれてショックを受けまし  
 た。おいしいりんご作りのポ  
 イントは剪定と摘果にある、  
 「ふじ」ならば下がり枝に良  
 果が実る確立が高い、それも  
 花台が短くて、花台から伸び  
 た新芽の長さが十センチ以下  
 に多く実るのでそのような木  
 に成るように剪定をし、摘果  
 をし、花芽を作る。土作りと  
 か資材に重点を置いたりんご  
 作りをしているところでは良  
 いりんごができていないとい  
 うことで、私が今まで主力を  
 置いてきたところとは百八十  
 度視点が違います。というよ  
 うなことをやっています。農  
 のトライアル&エラーは(果  
 樹・野菜の場合)一年周期で  
 す、一生涯に五十回、私の場  
 合は後二十回ぐらいしか経  
 験・修正できません。そう  
 いった意味  
 で、一回一回  
 が真剣勝負で  
 す。

「森林につ  
 いて」  
 山主はほと  
 んどの人が負  
 債(お金を生  
 まない財産と  
 いう意味で)  
 持ちである。  
 毎年何がしか

の固定資産税等を払い、相続  
 のときは相続税評価額に計算  
 される、毎年収入はない、今  
 のまま放置すればほとんど収  
 入は見込まれない、手入れを  
 しても報いが見えない現状に  
 あり、ますます緑の砂漠と  
 なっていく。  
 おやしから相続して山主と  
 なったが、自分の山がどこか  
 らどこまでかほとんど知らな  
 い無関心派であった。会社を  
 辞めて自分の棚卸しをはじめ  
 たとき、この山をどうしよう  
 かと、考えた。ほっておくの  
 か、手入れをするのか、全部  
 伐採して自然に任せるのか答  
 えはいまだ出ていない。昨  
 年、薪ストーブを仮設したの  
 で、必要に迫られて、冬仕事  
 に薪作りをはじめた一冬に使  
 う薪を確保する程度である。  
 一昨日、りんご生産クラブの  
 面々と毎年恒例の戸隠神社奥  
 社へ収穫祈願に行ってきた、  
 参道沿いの樹齢四百年近い杉  
 たちに再会してきた。千六百  
 十二年に植えられてから、枝  
 打ちも伐採もされずほとんど  
 手付かずの森約五十ヘクター  
 ルだそうである自然そのもので  
 ある。自然から求められる森林  
 の理想境なのか?。車を走ら  
 せていると、ちらほらと手入  
 れされた杉林なり唐松林が見  
 えるようになった。すこしづ  
 つ変化しているのかなあ、森  
 林塾に参加するようになって  
 森林の見方が変わってきたこ

のころである。  
 「後書きに変えて」  
 星は何億光年の出逢いに  
 きらめき  
 風は関わりを必然に過ぎ  
 る  
 刻々一期一会の摂理  
 いのち燃焼する時空  
 森は生きる尊さと しあわ  
 せを私に教え  
 先生はよろこびと、かぎり  
 ない愛を私に注ぎ  
 スタッフの人の目にひた  
 むきな情熱を私は見た  
 “時のうつろいを見定め、行  
 方をじっと見つめていきま  
 しょう”  
 若夏の空に  
 地軸が動く気配  
 或る時  
 抱きつづける想いは  
 光と化し  
 風立つ

模様か浮き彫りになる。ニス  
 を塗って大切にしていた。  
 アボガドをはじめ食べて食べた  
 ときは、まるまるしてみずみ  
 ずしい大きな種に驚き、命を  
 たたえた、といった感じが捨  
 てるに忍びなくて庭の砂場に  
 蒔いてみた。アボガドはあた  
 たい季節に蒔けばみんな  
 ちゃんと芽を出してすくすく  
 と育ち、濃い緑の葉を何枚も  
 出す。秋に葉を落とし、翌年  
 また葉を出す。でもその秋に  
 葉を落とした後はもう芽を出  
 さない。幾度もくりかえした  
 あと、アボガドは蒔かなく  
 なった。  
 おとしの夏の終わり、近  
 所の人にもらってアップルマ  
 ンゴーをはじめ食べた。毛  
 に覆われた大きな平たい種が  
 入っていた。すばらしくおい  
 しくて、この種を蒔いたらも  
 しかしてアップルマンゴーが  
 食べられるかも、寒い一本  
 だけでは実は無理かもしれない  
 けれど、どんな木になるの  
 かだけでも見てみたい、そう  
 思って蒔いた。  
 アボガドの時は2度目の冬  
 を越せなかったからと、鉢に  
 蒔いたらすぐに芽を出し次々  
 葉を出し、成長は止まったけ  
 れどそのまま冬を越した。夏  
 には二股に分かれて伸び、ア  
 パートの部屋で2度目の冬を  
 越した。  
 四月の終わり、もういいだ  
 ろうと外のベランダへ出した

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、  
 ご要望、事務局まで。  
 TEL 0265-70-7065  
 FAX 0265-70-7994  
 E-mail:  
 ki-hayakawa@koanet.co.jp  
 sh-sakano@koanet.co.jp  
 mi-tsuboki@koanet.co.jp  
 携帯:0902-53-26375(開催日)  
 H.P.http://www.koanet.co.jp



けれど、忙しさにあまり見な  
 いていたら夜の寒さにあたっ  
 てしまっていた。あわてて中  
 へ入れたけれど遅かった。  
 すっかり枯れて死んでしまっ  
 たアップルマンゴー、しらべ  
 たら、メキシコマンゴーとも  
 いう暑い地方のウルシ科の、  
 常緑樹だった。  
 [つら]

**おわりに**  
 どうやら日本列島が入梅  
 したようです。森林塾はあま  
 り雨にたたられたことがない  
 のですが、今年の梅雨はどん  
 な梅雨でしょう。今年の塾生  
 は「農」関係の方も多そうで、  
 空梅雨では困ってしまいます  
 し、あまりどんどん降られて  
 も草むし  
 りが大変  
 か。伐木  
 造材、間  
 伐と森林  
 塾も佳境  
 に入って  
 きます。